

令和4年度 奈良市立大安寺幼稚園 研究実践概要

園長名 堅尾 清子
全園児数 20名

1. 研究主題 「“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみたい”」
—夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして—
2. 研究年度 初年度

3. 研究主題設定理由

本園は奈良市の中心部に位置し、近くには大型の商業施設や寺院などが多数ある。近年は近隣の子ども園の設置や子どもの減少・保護者のニーズの変化等により、本園の在園児数は減少してきている。また、個々の育ちにあったかかわりや援助、環境構成を工夫していく必要がある。

昨年度は、“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみたい” という子どもの思いが実現できるように環境構成、援助など考えてきた。いろいろなことに挑戦する姿が見られたように思う。今年度も引き続き、取り組むことで子ども達が自ら考え、試し、遊びを進めていけるように環境構成や援助のあり方を職員全体で話し合い、実践していくことが重要であると考えこの主題を設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

「幼児の姿と成長の過程」「したい気持ちや力を存分に発揮できるような環境」「主体的な活動を促す保育者のかかわり」について探ることで、保育者の資質向上を図り、豊かな心とたくましさのある子どもを育む。

②研究の重点

- ・昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度の取り組みについて共通理解を図る。
- ・幼児一人一人の姿や内面（育ち）理解、主体的に活動するための環境や保育者の援助及び指導のあり方について研修を進め、計画的かつ継続的に実践する。
- ・なかまと共に生活する中で、自分の思いを表現することや相手の気持ちを思いやる心を育み、共に解決していくことのできるなかまづくりをする。
- ・豊かに活動する幼児を育成するための保育内容を工夫する。

③活動の方法

保育者の援助

環境構成

保育者の意図

I. 4歳児 5月 『ドーナツ屋さんに行くの』

- ねらい ○友達と関わりながら、自分のしたい遊びや興味をもった遊びを楽しむ。
○友達と同じものを使い、イメージを共有しながら遊びを楽しむ。

四角い段ボールを部屋に置いておくと、「これ使いたい」と保育者に伝える。「いいよ」と返すと、箱に入り、「バスみたい」と喜んでた。左右に紐をつけて持てるようにすると、動いて遊べるようになり、「いってきまーす」とバスに乗ってピロティに出かけて行くようになった。友達が遊んでいる様子を見て、「わたしも!」と同じものをつくり、バスに乗って遊んでいた。

前日つくって遊んでいたバスを出してきて、乗ってピロティに出て行った。その様子を見ていた他の子どもも真似をして出ていき、一緒にバスの歌を歌いながら歩いていた。保育者が「どこに行くの?」と問かけると、ちょっと考えてから「ドーナツ屋さん」と答える。その声を聞いた保育者は、お店屋さんのカウンターを積み木でつくって置いた。これを見つけた子ども達は、「これ何?」と保育者に尋ねたので、「いらっしやいませ〜ドーナツ屋さんです」と答える。

子ども達の様子を見ながら、思いを見取り、タイミングよく声をかけ、思いを引き出していけるように言葉でのやり取りをしながら、イメージを具体化していく。

イメージしたことが具体的に
なるように、積み木で、
カウンターをつくる。

それを聞いた子ども達は、「ドーナツないから並べよう」と自分で出してきて並べた。翌日、「ドーナツ屋さんしよう」と友達を誘い、積み木のカウンターをつくってドーナツ屋さんごっこを始めた。

バスごっこから、目的地をつくることで遊びが広がっていった。ドーナツ屋さんというお店屋さんのイメージを形にすることで、イメージを共有して遊びが広がって欲しい。

<考察>

バスごっこという遊びの中で、「どこに行くの?」と声をかけたことで、「ドーナツ屋さんに行く」という具体的な思いが引き出された。また、カウンターをつくったことで、お店屋さんのイメージが出来て、具体的な思いと、イメージが合わさって遊びが広がっていったのではないかと考える。保育者の考えやイメージを先に出してしまわず、子ども達の思いを聞きながら進めていくことは大切だが、イメージの広がりやきっかけづくりは大切なのではないかと考える。

II. 4歳児 9月 『忍者修行!成功!』

- ねらい ○少し難しいことに挑戦することを楽しみ、体を動かして遊ぶ。
○忍者になりきって友達と遊ぶ楽しさを味わう。

「カッコいい忍者になりたい」と園庭で好きな運動遊びを楽しんでいた。その中でA児は人一倍忍者に憧れを持っているが、運動は少し苦手で、「ちょっと難しい」といってロープ渡りは見ているだけだった。

A児「先生、昨日つくった忍者のかぶるやつ使いたい」と言うので、園庭で使うことにする。A児がかぶると、他の子どもたちもかぶり始め、「忍者みたい!それ~!」と忍者のように走り出した。その様子を見ながら、A児は「ロープのやつやってみる!先生一緒に行こう」と保育者を誘う。その声を聞いてB児もついてきた。A児は来てみたものの怖くてしようとしなない。その様子を見たB児が「みててや」と言って渡る様子を見せる。「手ぎゅーってのばして、つま先で歩くねん」とA児に言う。その後A児はゆっくりロープに登ってみた。グラグラする様子が怖く、何度も登ったり降りたりしたが、やがて1歩1歩進み始めた。B児は「そうそう、上手いやん、頑張れ!」と声をかける。出来たことを、B児は「すごいやん!頑張ったな」と喜んでくれた。その日振り返りで、A児は、ロープ渡りを頑張ったことを友達の前で話をした。

忍者アイテムをつくり、身に付けられるように準備しておく。

A児のやってみようと思った気持ちを受け止め「よし!一緒にいこう」と声をかけ、やる気を後押しする様にする。

B児の渡る様子を見ながら、より分かりやすくやり方を言葉にして伝える。

A児に友達の前で、頑張ったことを話してもらった機会をつくった。

出来たこと、頑張ったことを友達に認めてもらうことで「もっとやってみよう」という気持ちに繋がって欲しい。

<考察>

忍者のアイテムを身に付けることで、自分は忍者だという気持ちが持て、苦手な運動にも挑戦することができたのではないかと考える。そして、友達にやり方を教わり、保育者や友達に見守られ出来るようになったことを褒めてもらったことで自信に繋がった。またクラスの友達に自分の頑張りを知ってもらい、認めてもらったことで、色々なことに挑戦しようという気持ちが高まったと考える。

III. 5歳児 5月後半から7月 『実験!実験!』

- ねらい ○水・砂・泥の感触を味わいながら水遊びを存分に楽しむ。
○友達と思いや考えを出しながら遊ぶことを楽しむ。
○話し合ったり、試したり、工夫したりして遊ぶ。

4歳児の頃に遊んでいたことを思い出しながら、砂場での水遊びを楽しんでいる。温泉を深く、広く掘ったり、トイをつなげて水を流したり、それぞれに遊びを楽しんでいる。次はどうしたいのか友達や保育者と一緒に考えたり試したりしながら遊んでいる。

「温泉つくろう！」とA児。「僕は、トイを並べるわ」とB児。やりたいことを話している。友達の様子を見て、「手伝うわ！」「ここはこうやってつなげたい」と友達が遊びに加わった。しばらくすると、大きな温泉ができ、トイも完成した。「水流そう！」「うん！」「流れるかな？」「実験やで」とワクワクしながら水を汲みに行く。「行くよ！」と順番に水を流し始めた。「水流れてきたよ！」「ほんまや」「ヤッター！実験成功やな」と友達と顔を見合わせて喜んでい。「先生もやっていいよ」と自信気に言う。「明日も続きしような！」と友達と嬉しそうに話している。

(数日、遊んでからの振り返り)

「楽しかった！」「いっぱい水が流れた」など自分の思いを言葉で伝えている。「それいいね！」「面白そう」「やってみたい」と話しながら楽しみにしている。「トイ長くしよう！」とC児。「ここはこうやってつなげたらいいよね」とD児、E児が考えたり試したりしながらつくっている。「水流すね」「いいよ」と出来上がったコースに水を流すが、「あれ？漏れてる？」「なんで？」と話していると「あっ！ここがずれてるやん」とD児が思いつく。「分かった！こっち(左側)を上にごくぼれない」と伝える。「ほんまや！」「水流してみよう」とD児が水を流すと・・・「あ！流れた」とE児が言う。「やったー！水こぼれてない」と喜び、友達と何度も水を流して遊んでいる。

〈考察〉

初めは、それぞれに好きな遊びをしていたが、共通の目的(トイを長くつなげて水を流す)ができる友達と一緒に遊びを発展させることができた。遊んでいく中で、トイが壊れたり、水が漏れたりするトラブルがあったが、どうしたらいいのかを友達と話し合うことで自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いを聞いたりすることができた。また、実現できるように試したり、工夫したりして遊ぶ姿や役割分担をして遊ぶ姿もあった。

保育者の思いはあまり出さないようにし、子どもの思いを受け止め見守ったり、さりげなくしたことに目を向け、周りの友達に知らせたり、話し合い(振り返り)の場を持ったりしたことから「次もやりたい」「〇〇したい」という思いが出てきた。子どもの思いを大切にしてきたことで遊びが続いたのではないかと考える。

IV. 5歳児 9月後半～10月後半 『今日は何秒かな？』

ねらい ○友達と一緒に走ることを楽しむ。

○運動参観に向けて、速く走るにはどうしたらよいかを考える。

○タイムを計って自分がどれくらいで走れるのか知る。

運動参観に向けて、かけっこやリレー遊びを楽しんでいる。「〇〇ちゃん(くん)一緒に走ろう」「いいよ」などと友達に声をかけて走る順番を自分達で決めている。

「今日も走るやつやりたい！」とA児。「やりたい」「速く走れるようになりたいもん」とB児、C児が言う。遊びの後「今日はどの順番で走る？」とタイムを計る順番を決めている。「昨日は、好きな順番やったから、今日は並ぶ順番がいい」「名前前の順番がいい」など自分の思いを友達に伝えている。

話し合いで、順番が決まると並んで自分の番が来るのをドキドキ、ワクワクしながら待っている。「よーい。ピー」の合図を聞いてトラックを力いっぱい走るB児。タイムを聞いてニコッと笑った。周りの友達も「速いね」と認めている。「次は僕、今日は何秒かな？」とD児が楽しみに合図を待っている。「何秒？」と楽しみにし、「やったー」と喜んでいる。

友達と思いを出しながら遊んだり友達に刺激を受けたりして取り組む姿をB児とトイを組み合わせながら見守る。

「すごいね！流れてきたの見たよ」と嬉しさに共感し保育者も一緒に遊ぶ。「明日はどんな風にするの？」と問いかけ明日に期待が持てるようにする。

実験が成功したことをきっかけに、友達といろいろな考えを出し合いながら、楽しいことを考え遊んでほしい。

遊びの振り返りをし「次はどんな風にしたいかな？例えば、みんなの作ったトイを長くつなげるとか？」と幼児の思いを受け止め、アドバイスをする。

“なぜこぼれるのか、気付いてほしい”と思いながら友達と考えている様子を見守っていく。

「遊びの後にしよう」と声をかけ、子ども達のやる気を受け止める。子ども達で順番を決めている様子を笑顔で見守る。自分の思いが伝えにくい幼児にはさりげなく「どっちがいい」と声をかける。

走ることやタイムを計ることを楽しんでほしい。

「15 “99！昨日より速くなっているよ」、14 “90！おお、速い。だんだん速くなっているね」と昨日より速くなっていることや頑張り認める。

「14秒めっちゃ早い」と友達が認める。
「次は私」とE児。ドキドキしながら合図を待っている。「よーい。ピー」の合図を聞いて走る。
「私、走るの苦手だから」とぼそつと言う。「あのね。速く走るにはどうしたらいいのかな？」とE児が恥ずかしそうに話すと、「手をしっかり振ったらいいねん」「足を速く動かす」「ちゃんと前を見る」「手をグーにする」など答えている。「ありがとう！」とE児が言うと「いいよ」と受け入れる。「明日、また走りたいな」と楽しみにしている。
(次の日)
「今日も走る?」「計るやつやりたい」と朝の遊びから楽しみにしている。

友達の良さや頑張りに気付けるようになってほしい。

「18”55!昨日よりは少しゆっくりだったね。でも最後まで力いっぱい走れたね」と頑張りを認める。「どうしたら速く走れるのか聞いてみる?」と提案する。「ねえ?みんなEちゃんが聞きたいことがあるみたいだよ」と知らせる。

「いろいろな答えが出たね」と考えたことを認め、共感する。「Eちゃんいっぱい教えてもらえたよ。次に走る時にやってみようね」と試せるように声をかける。

<考察>

友達と走ることを楽しみにかけっこやリレーに取り組んでいる。初めは、好きな友達と走ることを楽しんでいて、「この友達には勝てる!」と言う思いから、毎日同じ友達と走る幼児が出てきた。「いろいろな友達と走れるといいな」「何か方法はないかな」と考えたところ、タイムを計ってみることを思いついた。「どれくらいで1周走れるのか知りたくない?」と声をかけた。「やりたい!」「速く走れるようになりたい」と意欲的だった。毎日、遊びの後にタイムを計ることで一人一人少しずつ速くなってきていた。ボードに書いて自分で見られるようにしておくことで「速くなって!」「今日はちょっと遅かった」など自分なりのめあてを持って取り組むようになっていく。走る楽しさを味わい、タイムに興味を持つことで次の目標ができ、タイムを計る楽しさや速くなっていることの嬉しさなどを味わうことができた。と考える。

5. 研究の成果

- ・夢中になって遊ぶためには、どのような環境構成や援助、かかわり方が必要なのかを実践をもとに、外面、内面から考え保育士間で話し合ってきた。子ども達の動き・遊びのがりや創意工夫が見られるか、また、子ども自らやってみようとしていたか、心の育ちや気持ちの変化にも目を向け、色々な角度から振り返ってみると、「やってみよう、たのしいな、もっとやってみよう」と思える環境構成や援助、かかわり方がより見えてきた。また、昨年度から行っている園庭図に遊びの様子を記入し、振り返ることで、子どもの興味、関心・遊びの流れや深まりを改めて知ることができた。
- ・4歳児は「したい遊び」から色々な活動、遊びの経験を通して「好きな遊び」を友達と一緒に楽しむ姿が見られるようになった。ちょっと難しいことでも、「やってみよう」と思う気持ちを持てたり、明日はこんな風にしてみたいと友達と思いを出し合ったり、遊びを継続して楽しめるようになってきている。
- ・5歳児は、振り返りや話し合いの時間をとり、みんなで考えることを繰り返すことで、自分達で遊びを進めていく楽しさを味わうことができた。みんなで思いや考えを出す中で、友達の考えや思いに気付いたり、認めたりすることで遊び広がり、友達関係も深まってきた。「やってみよう」「たのしいな」「もっとやってみよう」と友達と遊ぶことを楽しみ夢中になって遊ぶ姿が見られるようになった。
保育者は子ども達の思いを丁寧に受けとめ、共感し楽しさを共有すること、子ども達の様子を見守り寄り添うことを大切にしながら保育してきた。これらのことが夢中になって遊ぶ姿につながると考える。

6. 今後の課題

子ども達が、夢中になって遊ぶには、「やってみよう」「たのしいな」と思う経験が出来る環境や適切な援助等が大切である。子ども達はいろいろな遊びの場で気持ちの高まりや思いなど感じ方はさまざまだが、「今、何をしたいのか?」「どんなことに興味を持っているのか?」を、遊びを通して見守り、寄り添いながら引き続き学んでいきたい。また、園庭図は遊びの深まりや遊びの広がり、環境構成などを知ることができたので継続したい。ドキュメンテーションでは、子ども達の遊びの様子に含め、どのような力が着き、どのようなことを学んでいくのかを保護者に発信していきたい。